令和８年度　大阪府立東住吉支援学校　第２回　学校運営協議会　議事録

大阪府立東住吉支援学校
校　長　　橋本　真希
准校長　　榮　　仁寛

日時	令和８年11月11日（水）　10:00～11:00
場所	大阪府立東住吉支援学校
委員	家門鉄治　冬木真規子　羽室剛　泉原敦　角田早苗　丸山直子
事務局	橋本　真希（校長）　榮　仁寛（准校長）　澤　功（事務長） 木﨑　俊介（教頭）　岩田　博昭（教頭）　蔵本　真澄（教頭） 中尾　葉子（首席）　髙嶋　麻乃（首席）　池田　浩明（首席）　川上　達也（首席）
議題	・令和８年度学校教育自己診断について ・校内（授業）見学 ・事務連絡：今後の予定について
協議内容	１．学校長あいさつ ＊学校の様子　＊次年度の児童生徒数の見込みについて ＊校内の大規模工事について（進捗状況） ＊令和10年度　通学区域割の変更について ２．令和８年度　学校教育自己診断について ＜首席より＞ ＊質問数は、教職員32項目、保護者22項目、児童生徒10項目。 ＊回答率は、教職員100％、保護者70％であった。 ＊分析については次回の運営協議会で報告する予定。 ＜委員より＞ ＊アンケートの目的としては、学校のことをそれぞれの視点から調査することで合っているか。　児童生徒対象のアンケートは回答が難しい。 ＊児童生徒が自分で回答することが難しい場合はどうしているのか。 ⇒保護者が代わりに回答したり、「分からない」と答えてもらったりしている。

協議内容	＊親でも、子どもの気持ちを推し量って回答するのは難しい。 ＊「客観的指標」という観点で、例えば質問を「学校に行くと笑顔が増える」というようにすると、回答できる人が増えるかもしれない。 ＊ニーズが異なる中で、回答できる人を増やすことは今後の課題である。 ＊学校として統計的な分析を続けるためにおさえておかなければならない質問項目もある。 ＊教職員はアンケートの結果をどのように活かしているか。 ⇒分析して、学校全体のこととして教職員に報告し、共有している。 ＊進路担当の教員以外は進路のことをよく分かっていないように感じることがある。教員は事業所と話をしてほしい。教員に毎回同じことを聞かれているため、教員も学んでほしい。 ＊本校は、小・中・高の学部があり、さらに肢体不自由と知的障がいの２部門がある。アンケートでは一旦全員同じ質問でおさえておき、教員の進路についての認識など、細かい分析をすることもできる。分析で分かったことがあれば次回示してほしい。 ３．授業見学 ＊A（肢体不自由）部門（小学部・中学部・高等部） ＊B（知的障がい）部門（小学部・中学部・高等部） ４．准校長あいさつ ＊学校教育自己診断の質問内容に関して、客観的指標の件や教職員のアンケートの活かし方等について有意義な意見をいただくことができた。 ＊見学した授業に関する意見があれば次回伝えていただきたい。 ＊通学区域割変更については、保護者からの不安の声や意見がたくさんあるため、真摯に受け止め、少しでも安心感と期待感をもつことができるよう、学校としてできることをしていきたい。 ５．今後の予定について：第３回は１月末～２月初を予定。
協議資料	・令和８年度　学校教育自己診断について
備考	傍聴者【３名】